

本 社	●100・東京都千代田区丸の内3・2・3・富士ビル	☎東京(03)214-5311(代表)
大 阪 営 業 所	●542・大阪市南区南船場2・11・20・興国ビル	☎大阪(06)251-7022(代表)
大 阪 営 業 所・修 理 部	●542・大阪市南区南船場2・11・20・興国ビル	☎大阪(06)251-7024(代表)
名 古 屋 営 業 所	●460・名古屋市中区栄2・5・1・宝第一ビル8階	☎名古屋(052)203-1871(代表)
札 幌 営 業 所	●060・札幌市中央区大通西1・13・大通ビル	☎札幌(011)231-7898(代表)
仙 台 営 業 所	●980・仙台市中央3・2・1・仙台清水ビル	☎仙台(0222)27-1237(代表)
新 潟 営 業 所	●951・新潟市西堀通5番町855・コーリンビル	☎新潟(0252)22-1461(代表)
横 浜 営 業 所	●220・横浜市西区北幸1・1・13・横浜駅前ビル	☎横浜(045)312-1101(代表)
広 島 営 業 所	●730・広島市中区袋町3・19・広島東邦生命ビル	☎広島(082)248-1216(代表)
福 岡 営 業 所	●810・福岡市中央区天神2・12・1・天神ビル	☎福岡(092)721-3561(代表)
東 京・サ ー ビ ス 部	●143・東京都大田区大森北6・19・22	☎東京(03)784-2601(代表)
新 宿 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●160・東京都新宿区西新宿1・25・1・新宿センタービル地下1階	☎東京(03)349-0701(代表)
銀 座 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●104・東京都中央区銀座4丁目8番8号・明裕国際会館4階	☎東京(03)561-0888(代表)
東 京・大 井 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●140・東京都品川区大井1・2・15	☎東京(03)771-6963
青 森 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●030・青森市埴町1・2・21・青森県食糧会館3階	☎青森(0177)73-6691(代表)
大 宮 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●330・大宮市仲町2丁目75番・富国生命ビル4階	☎大宮(0486)44-8011(代表)
静 岡 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●420・静岡市南安倍1・3・10・山善静岡ビル8階	☎静岡(0542)52-5853・5854
名 古 屋 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●450・名古屋市中村区名駅3・28・12・大名古屋ビル4階	☎名古屋(052)563-2881(代表)
大 阪・梅 田 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●530・大阪市北区芝田1・4・1ア・梅田エステートビル	☎大阪(06)372-3385・3602
岡 山 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●700・岡山市石岡町1丁目1番地・新石岡ビル7階	☎岡山(0862)25-6939
高 松 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●760・香川県高松市古新町6・8・第3ミタケビル	☎高松(0878)21-1321(代表)
金 沢 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●920・金沢市尾山町3・18・金沢東京海上ビル	☎金沢(0762)22-1201(代表)
鹿 児 島 サ ー ビ ス セ ン タ ー	●892・鹿児島市山之口町2・1・安田火災海上鹿児島ビル5階	☎鹿児島(0992)24-1051(代表)

Nikon データブック

MF18

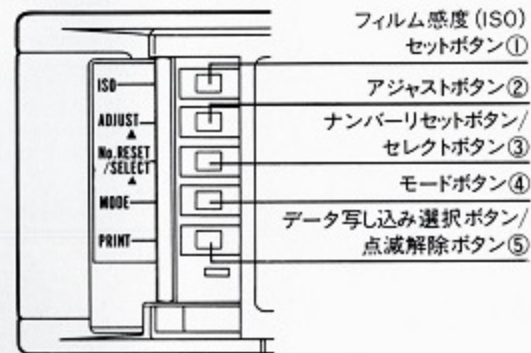
使用説明書

目次

各部の名称	3~5
はじめに	6
電池の入れ方	7~8
カメラへの取り付け	9
データのセット	10~17
モードボタン	10
ナンバーリセット/セレクトボタン	10
アジャストボタン	10
日付と時刻のセット	11 16
フィルムカウンターのセット	17
フィルム感度のセット	18
写し込みの選択	19
撮影	20~23
巻き戻し自動停止	24~25
ご注意	25~26
取扱い上のご注意	27
液晶表示について	27
電池の交換および取扱いについて	28
仕様	29

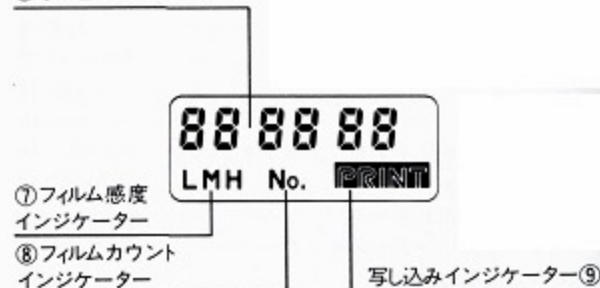
各部の名称

操作ボタン

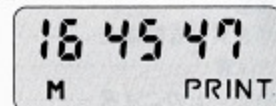
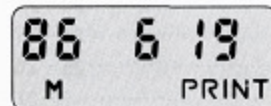


(使用説明書本文中の名称番号は、各部の名称の番号に準じています。)

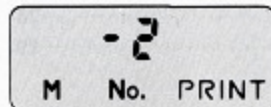
⑥写し込みデータ



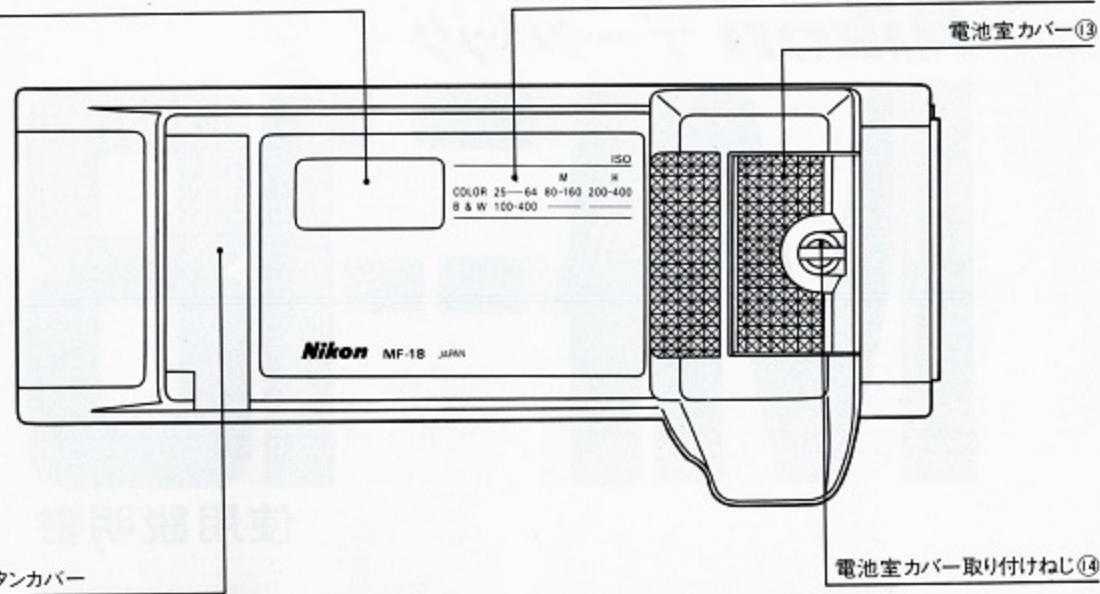
<年・月・日>モード 表示例 <時・分・秒>モード



<フィルムカウント>モード



⑩表示窓



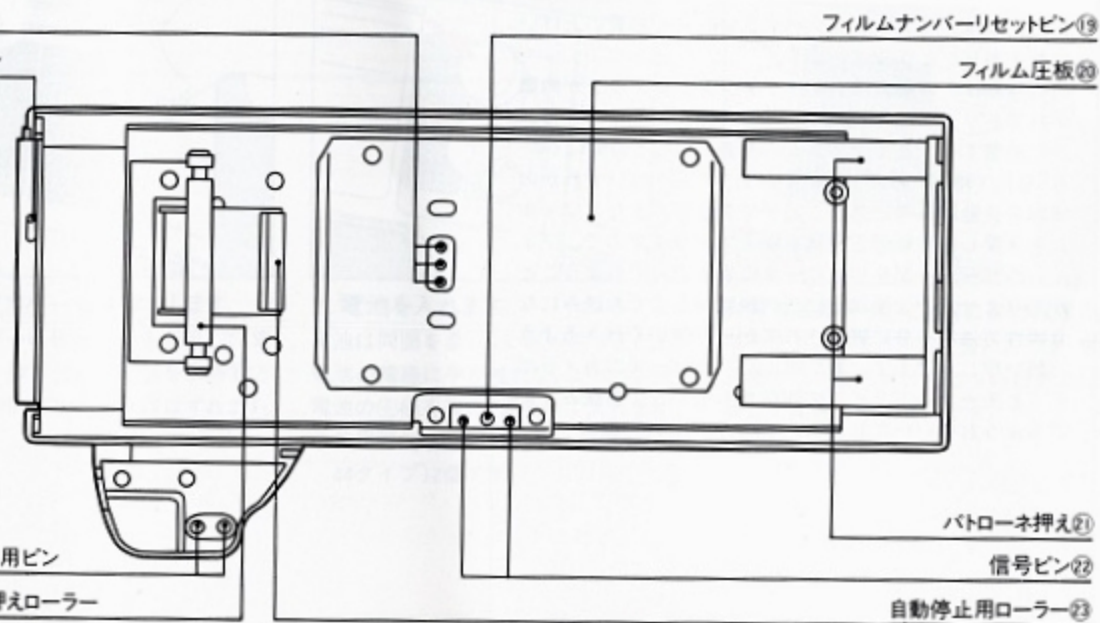
⑪操作ボタンカバー

⑮発光窓

⑯着脱ピン

⑰自動停止用ピン

⑱フィルム押えローラー

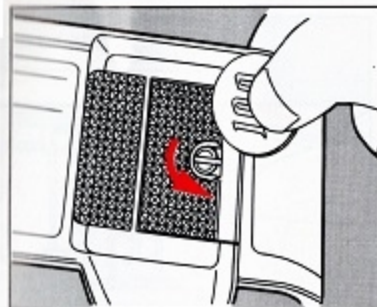


はじめに

このたびは、ニコンデータバック MF-18をお買い上げいただきありがとうございます。

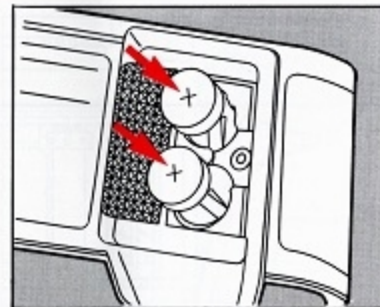
この製品は、液晶表示クォーツデジタルウォッチが内蔵されており、モータードライブMD-4付きF3シリーズカメラに装着することでフィルムの画面と画面との間に〈年・月・日〉、〈時・分・秒〉、〈フィルムナンバー〉のいずれかの情報を自動的に写し込むことができます。また、フィルム巻き戻しの自動停止機構を備えておりますので、フィルムのリーダー部をバトローネに巻き込んでしまうことがありません。ご使用前にこの説明書をよくお読みになり操作方法を十分に理解されてからお使いくださるようお願い申し上げます。また同じくF3シリーズのカメラボディとモータードライブの説明書も合わせてお読みくださるようお願いいたします。

電池の入れ方



1. 電池室カバー⑬をはずします。

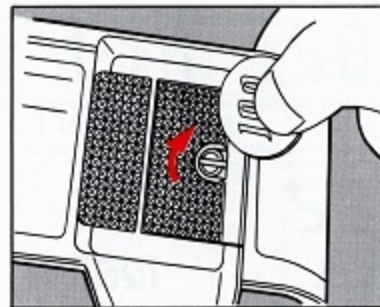
電池室カバーは硬貨などを利用して、電池室カバー取り付けねじ⑭を反時計方向(図の矢印方向)へ回せばはずれます。



2. 電池を入れます。

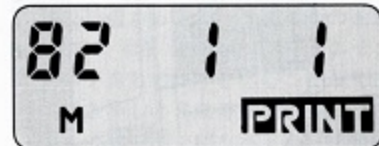
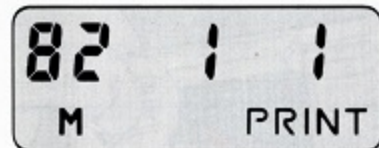
電池は両面を柔らかい紙か布でよく拭き電池の電極に手が触れないように持って、電池の⊕極を表に2個並べて入れます。

●使用可能な電池は1.55Vの銀電池(SR44タイプ)2個です。



3. 電池室カバーをもと通りに取り付けます。

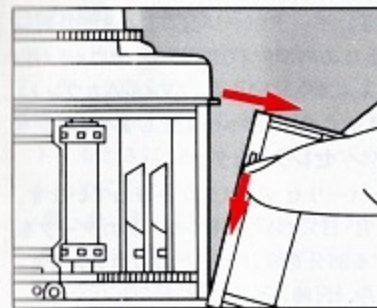
電池室カバーをもとの位置にかぶせ、電池室カバー取り付けねじを時計方向に回して確実に取り付けます。



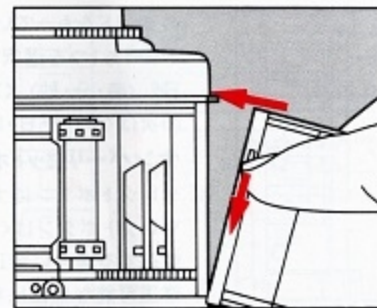
4. 表示窓⑩の表示を確認します。
1982年1月1日を表わす82 1 1、フィルム感度インジケータ⑦のM、および写し込みインジケータ⑨が表示されます。写し込みインジケータはPRINT・**PRINT**が交互に点滅しています。

- 正常な表示が出るまで数秒かかる場合があります。
- 表示が出ない時やほかの表示が出る場合は、電池の入れ方をもう一度確認してください。
- 電池を入れると、内蔵のクォーツデジタルウォッチが1982年1月1日午前0時00分00秒から計時を開始します。

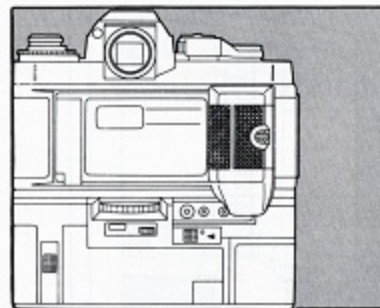
- 新しく電池を入れたり、電池を交換した後は、作動確認のため、MF-18をカメラ(MD-4付)に装着状態でフィルムカウントのモードにして(P.10モードボタンの項をご参照ください)シャッターをきり、フィルムナンバーが1つ増えたか確認してください。増えなかった場合は、電池を入れなおしてください。



1. カメラの裏ぶたをはずします。
カメラの裏ぶたを開き、裏ぶた着脱ピンを押し下げて裏ぶたをはずします。

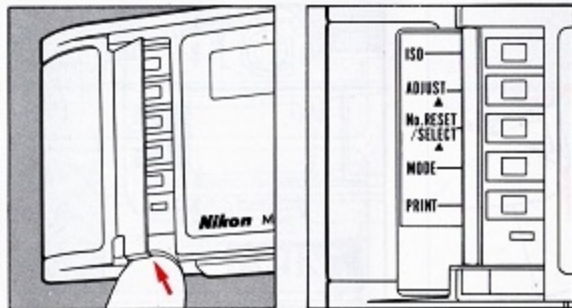


2. データバックMF-18を取り付けます。
MF-18の着脱ピン⑩を押し下げながらカメラにMF-18を取り付け、裏ぶたを閉じる要領でMF-18を閉じます。これでMF-18とカメラ、モータドライブは専用の接点⑫と⑬で直結されます。



- 信号ピン⑭と自動停止用ピン⑮は汚さないように気をつけてください。万一、汚れたときには、ご使用前にきれいな布または紙で接点部を拭いてください。
- 万一、MF-18がスムーズに開閉できない時は最寄りのニコンサービス機関、もしくは営業所まで、カメラ、モータドライブとMF-18をお持ちください。

データのセット



操作ボタンカバー①を開きます。

操作ボタンカバーの下部に指先をかけて開きます。

- 操作ボタンカバーを開閉の際、必要以上に強い力をかけないでください。

操作ボタンカバーを開けると5つのボタンが並んでいます(P3をご参照ください)。この5つのボタンのうち〈年・月・日〉、〈時・分・秒〉、〈フィルムカウント〉のデータをセットするときはモードボタン④、ナンバーリセットボタン/セレクトボタン③、アジャストボタン②の3つのボタンを使用します。

モードボタン

MF-18は〈年・月・日〉、〈時・分・秒〉、〈フィルムカウント〉の3つ

のモードをもっています。モードボタンは、この3つのモードのうち1つを選択するためのボタンで1回押すごとに〈年・月・日〉、〈時・分・秒〉、〈フィルムカウント〉の順(〈フィルムカウント〉の次は〈年・月・日〉に戻ります)に表示が変化します。

ナンバーリセットボタン/セレクトボタン

セレクトボタンはナンバーリセットボタンを兼ねています。セレクトボタンは〈年・月・日〉、〈時・分・秒〉モードのデータを修正する場合に修正する部分呼び出すためのボタンです。修正可能な単位は年、月、日、時、分、秒です。

セレクトボタンを1回押すごとに、〈年・月・日〉モードでは年→月→日→〈年・月・日〉→年→月→日というように、〈時・分・秒〉モードでは、時→分→秒→〈時・分・秒〉→時→分→秒というようにくりかえし変化します。

〈フィルムカウントモード〉の場合、ナンバーリセットボタンでフィルムナンバーをリセットできます(P17をご参照ください)。

アジャストボタン

アジャストボタンはデータを修正する際、修正モードにおいて数字を変えるために使うボタンです。アジャストボタンを1回押すごとに数字は1つずつ増えます。

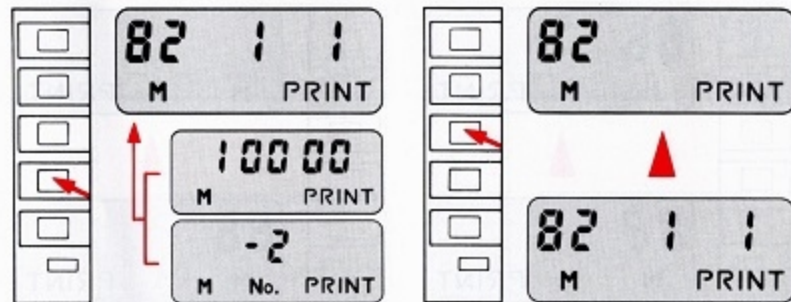
日付と時刻のセット

1986年6月19日午後4時45分を例にとって、データの合わせ方をご説明します。

- 電池を入れた後最初にデータをセットするときは〈年・月・日〉のモードから始めてください。

〈時・分・秒〉のセットから始めますと、先に〈時・分・秒〉を合わせても、後で〈年・月・日〉のセットをするとき、アジャストボタンを1回でも押すと、時計が止まり、0(ゼロ)秒に戻ってしまいます。

- データのセットをする際も、写し込みインジケータのPRINT、は交互に点滅していますが、消すことも可能です。詳しくはP19をご参照ください。

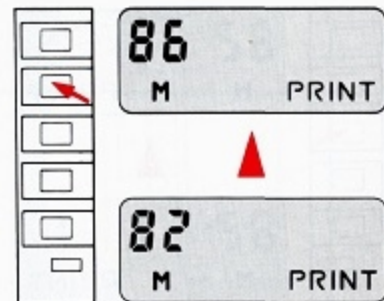


1. 表示が〈年・月・日〉になっていることを確認します。

表示が秒単位で変化している時は〈時・分・秒〉表示です。また、フィルムカウントインジケータ⑧にNo.が出ている時は〈フィルムカウント〉表示です。これらの表示の時は、モードボタンを押して〈年・月・日〉表示に直します。

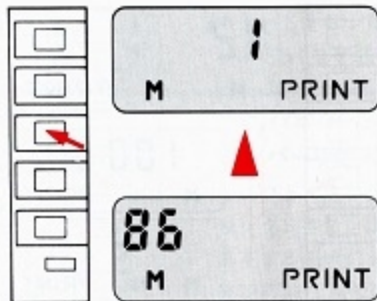
2. 年を合わせます。

セレクトボタンを1回押すと、月・日の表示が消え年の修正モードとなります。

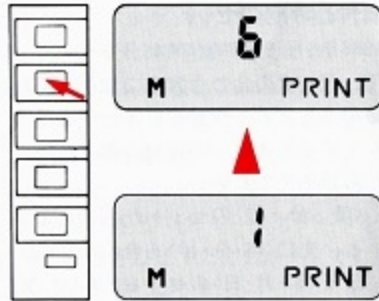


アジャストボタンを押して86(セットする年)に合わせます。
●年はかならず西暦の下2桁の数字に合わせてください。

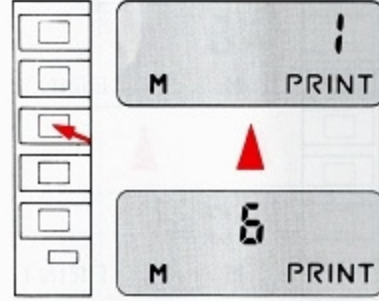
例：昭和61年(1986年)の場合



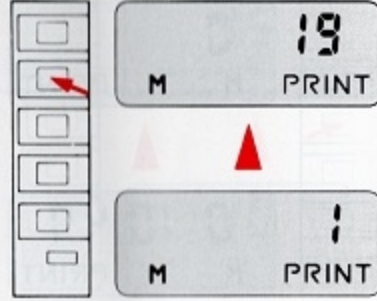
3. 月を合わせます。
セレクトボタンを押して月の修正モードにします。



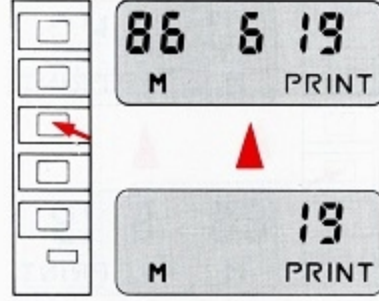
アジャストボタンを押して6(セットする月)に合わせます。



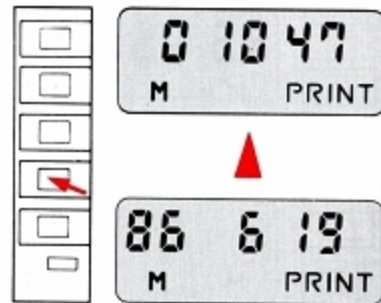
4. 日を合わせます。
セレクトボタンを押して日の修正モードにします。



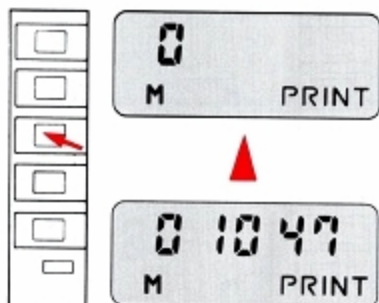
アジャストボタンを押して19(セットする日)に合わせます。



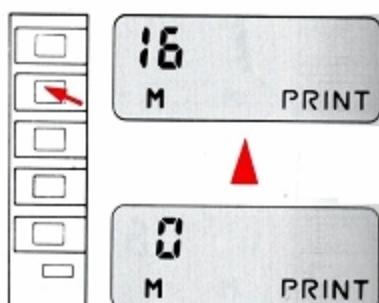
5. 修正モードを解除します。
セレクトボタンをもう1回押すと修正モードが解除され、セットした86 6 19の表示になります。合わせ間違いがないか確認してください。



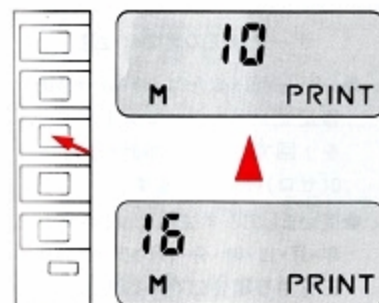
6. <時・分・秒>表示にします。
モードボタンを1回押して<時・分・秒>
表示にします。



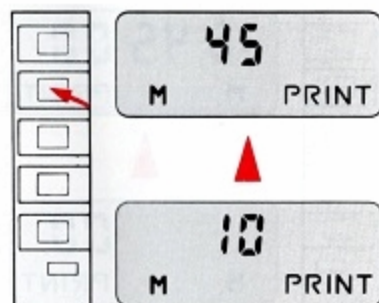
7. 時を合わせます。
セレクトボタンを1回押すと、分・秒の
表示が消え時の修正モードとなります。



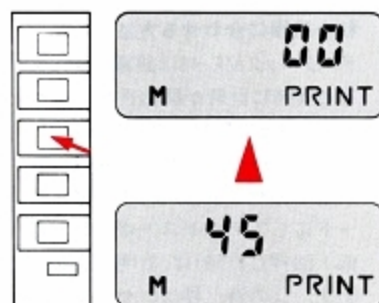
アジャストボタンを押して16(セットす
る時)に合わせます。
●MF-18の時計は24時間制になってい
ますので、午後4時の場合は16に合
わせてください。



8. 分を合わせます。
セレクトボタンを押して分の修正モー
ドにします。



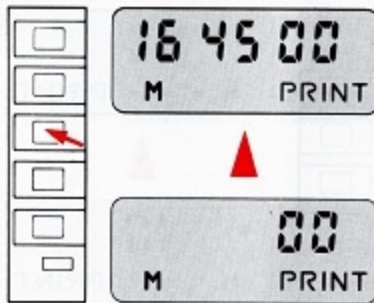
アジャストボタンを押して45(セットする
分)に合わせます。



9. 秒を合わせます。
セレクトボタンを押して秒の修正モー
ドにします。
●この場合、アジャストボタンを押し
ても秒の数字は進みません。

秒を正確に合わせる方法

データバックMF-18は銀電池を入れると同時に計時が開始され、電池が消耗するまでストップしませんが、〈年・月・日〉モードと〈時・分・秒〉モードでのセット(修正)中(修正モードにしてアジャストボタンを最低1回押した時)は、計時が止まります。この時、秒は0(ゼロ)秒に戻ります。分を合わせる時、あらかじめ現在の時刻より1~2分進めた数値にしてセットし、その表示と実際の時刻が一致した時に計時がスタートするようにセレクトボタンを押せば、0(ゼロ)秒からのスタートになります。

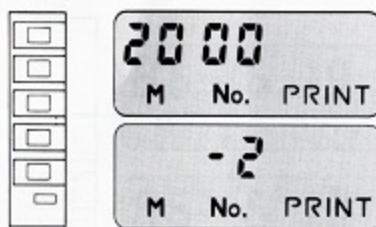


10. 修正モードを解除します。

セレクトボタンをもう1回押すと修正モードが解除され、16 45 00 から計時を始めます。合わせ間違いがないか確認してください。

データ修正の際のご注意

- 〈年・月・日〉または〈時・分・秒〉の修正モードでアジャストボタンを1回でも押すと時計が止まり0(ゼロ)秒に戻ります。
- 従いまして、すでにセットされた年・月・日・時・分・秒のデータの修正をする場合は〈秒〉以外の修正のみを行う場合も、一度でもアジャストボタンを押した場合は、最後に〈秒〉を合わせて下さい。(フィルムカウンターの修正のみを行う場合は、その必要はありません)



フィルムカウンターのセット

データバックMF-18のモードがフィルムカウントモードであれば、フィルムナンバーはフィルムインジケータのNoとともに表示され、その数字を写し込むことも可能です。フィルムナンバーは、どのモードの時でもMF-18を開くと-2にリセットされます。その後、MF-18を閉めるとどのモードの時でもデータを写し込む、写し込まないにかかわらず、リリースを1回行うごとにフィルムナンバーが1

つずつ増えていきます。MF-18を閉めたままの状態でもナンバーをリセットしたい場合は、モードボタンを押してフィルムカウンターモードにして、ナンバーリセットボタンを押せば-2にリセットされます。フィルムカウントモードでアジャストボタンを押すとフィルムナンバーの数字を-2から2000までの範囲で変えることもできます。これはデータバックMF-18を開いた状態でも可能です。

なお、MF-18のフィルムカウンターのナンバーは2000でストップします。

- カメラボディのフィルムカウンターは巻き上げに応じて計数しますが、データバックMF-18のフィルムカウンターはリリースに応じて計数しますので巻き上げ前後か、リリース前後かによって両方のカウンター表示が1コマずれる場合があります。

フィルム感度のセット

	ISO		
	L	M	H
COLOR	25—64	80-160	200-400
B & W	100-400	—	—

データバックMF-18はいろいろなフィルムが使用できるように、データ発光量をL.M.Hの3段階に切り換えることができます。装填したフィルムに合う発光量にセットすることをここではフィルム感度のセットといいます。

フィルム感度のセットは、フィルム感度セットボタン①で行います。このボタンを一回押すごとに光量はM→H→L(→M…)と切り換わるとともに表示窓に、

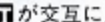
セットしたL、M、Hのいずれかの文字が表示されます。使用するフィルムの感度に対する光量の切り換えは、データバック背面のフィルム感度対照表②を見て対応する段階にセットしてください。フィルム感度対照表のB&Wは黑白フィルムを、COLORはカラーフィルムを示し、それぞれの右横に並んでいる数値はフィルムのISO感度を示します。

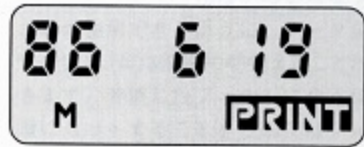
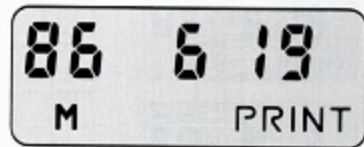
●フィルム対照表にないフィルムを使

用した場合は、データが正常に写し込まれません。

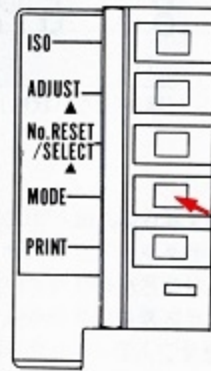
- 特殊なフィルムや増感、減感処理をする際はあらかじめテスト撮影をしてください。
- フィルムによってデータの光が若干画面内に回り込むことがあります。このような時は、データ発光量を1段上(Lの場合はMに、Mの場合はHに)セットしてください。

写し込みの選択

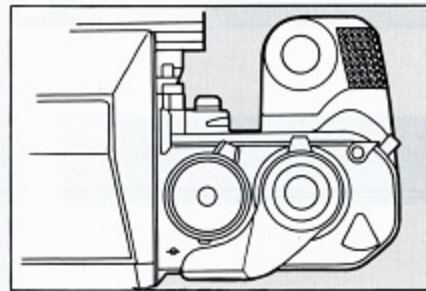
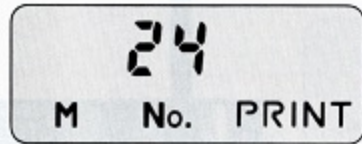
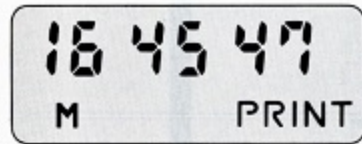
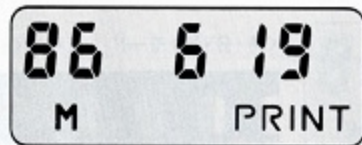
データを写し込むか、写し込まないかはデータ写し込み選択ボタン⑤で行います。データ写し込み選択ボタンを1回押すごとに、写し込みの状態と写し込まない状態とが切り換わります。写し込みの状態の時は表示窓の写し込みインジケータにPRINTとが交互に点滅します。



1. 表示窓にPRINTと **PRINT** が交互に点滅しているか確認してください。点滅していない時(PRINT・**PRINT** の文字が表示されていない時)、データは写し込まれません。

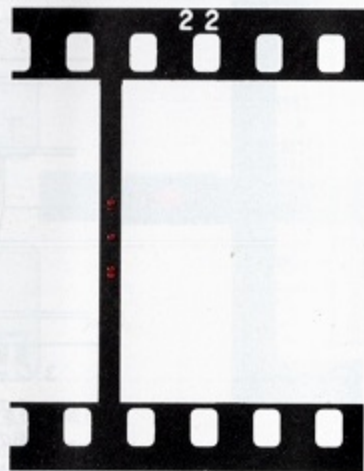


2. モードボタンを押して<年・月・日>、<時・分・秒>、<フィルムカウント>のモードのうち写し込みたいものを表示窓に呼び出します。なおデータは必要に応じて修正してください。



3. シャッターを切ります。その時表示しているデータが画面の左外側に写し込まれます。なお、シャッターを切った時、液晶表示が一瞬点滅します。

<年・月・日>モード

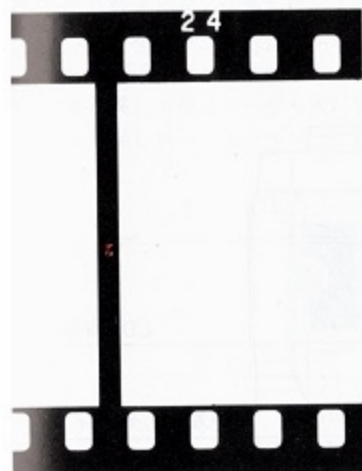


<時・分・秒>モード



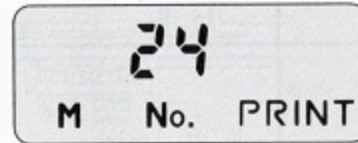
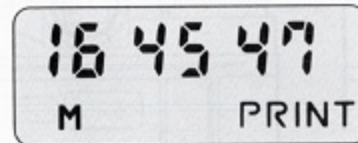
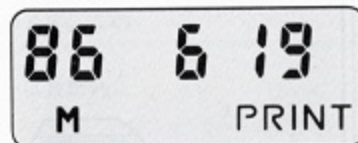
フィルム感度インジケータのL、M、H、写し込みインジケータのPRINT、**PRINT**、フィルムカウントインジケータのNo.は写し込まれません。

<フィルムカウント>モード



※図の例(赤色の数字)はカラーポジ(スライド)フィルムの場合です。
カラーネガフィルムの場合、ネガ上では緑色の数字となります。

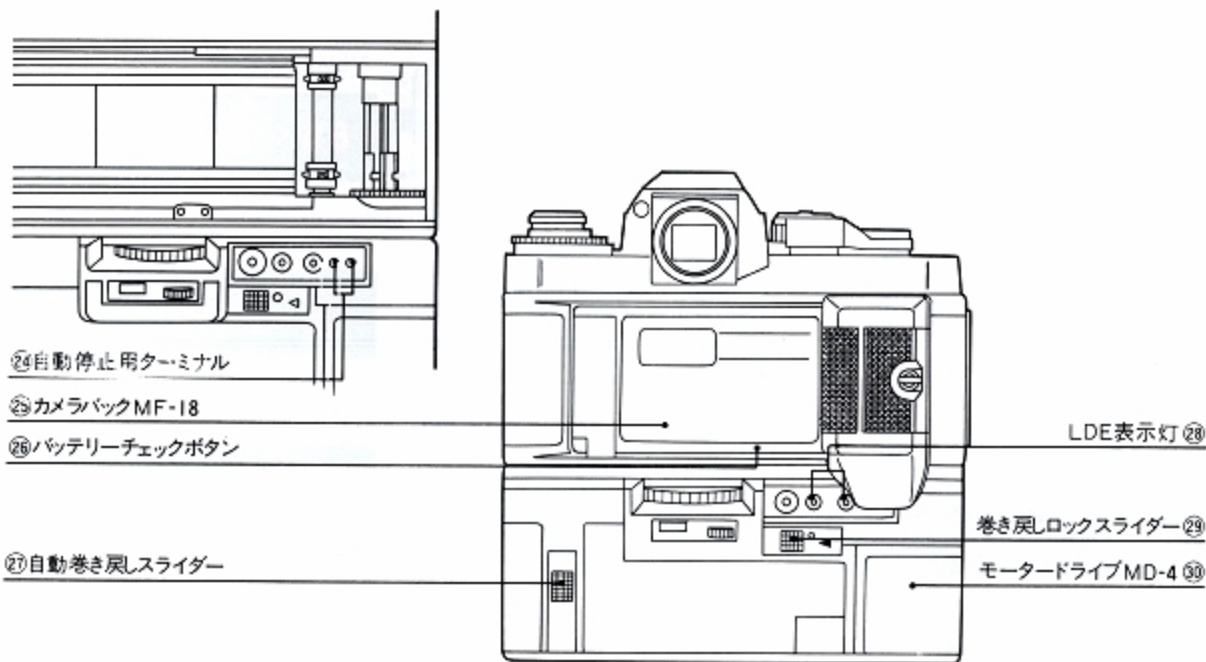
液晶表示



写し込まれるデータ



巻き戻し自動停止



1. 撮影が終了したら、巻き戻しロックスライダ②⑨を中央のボタンを押しながら左へいっぱいまでスライドさせ、そのまま自動巻き戻しスライダ②⑦を押し上げます。この操作で自動巻き戻しが開始されます。
2. フィルムの巻き戻しが終了すると、モーターは自動的に停止してLED表示灯②⑧が点灯します。
3. 自動巻き戻しスライダをもとに戻すと、LED表示灯が消え巻き戻しロックスライダも同時に戻ります。

ご注意

- データバックMF-18を装着したニコンF3シリーズ(MD-4付)の緊急作動レバーで撮影した場合、データは写し込まれません。またMF-18のフィルムカウンターも作動しません。
- 修正モードで写し込みますと、その時表示されている桁ばかりでなく他の桁も写し込まれてしまいます。
- 電池を入れた直後にシャッターを切る場合は電圧の関係上、約10秒お待ちになってからシャッターを切ってください。
- <フィルムカウント>モード時に写し込まれるフィルムナンバーは、フィルムのパーフォレーションの近くに表示されるフィルムナンバーと、一致しない場合もあります。
- 多重撮影を行う場合にデータを写し込む時は、最初の露光の時だけデータを写し込んで、以降は写し込み選

択ボタンを押してデータを写し込まない状態にして、撮影を行ってください。なお、多重撮影のためフィルムナンバーを補正したい場合は、PI7の「フィルムカウンターのセット」をご参照ください。

- 液晶表示窓は、強い力で押さないでください。
- 巻き上げレバーを使つてのフィルム巻き上げはできるだけさけてください。データの写し込みは可能ですが場合によってはデータの写し込みが画面内に入ることがあります。
- 巻き戻しが終了してLED表示灯が点灯したら、電池の消耗を避けるために、なるべく早く自動巻き戻しスライダーをもとに戻してください。
- MF-18の自動停止用ローラーには、触れないようにしてください。この部分に変形すると故障の原因となり

ます。また自動停止用ターミナル④は汚さないように気をつけてください。万一、汚れたときには、ご使用前にきれいな布または紙で接点部を拭いてください。

- 一般のフィルムに比べてベースの厚さが薄い、特殊なフィルムを使用した場合は、フィルムのリーダー部が、カメラのスプールから完全にはずれていない状態で、巻き戻しが自動停止することがありますが、このような場合でも巻き戻しは十分に行われていますので、フィルムには異常はありません。ただし、フィルムを取り出さずに再びリリース操作することは行わないでください。リリース操作を行いますと、再度フィルムが巻き上げられる場合があります。

取扱い上のご注意

- データバックMF-18は精密な電子部品から構成されていますので、スピードライトを併用する時は、MF-18の電子回路に適合するようにつくられているニコンスピードライトのご使用をお奨めします。(市販のスピードライトの一部にはMF-18の機能を十分発揮できなかったり、故障の原因となるものも考えられますので十分ご注意ください。)
- データバックMF-18は溶剤でふかないでください。
- データバックMF-18は-10°C~+40°Cの温度範囲内でお使いください。
- データを写し込んだネガをプリントしても画面上にデータはプリントされません。
- ラボで現像すると、ネガケースに入れる際にデータ写し込み部が切断されることがあります。切断されない様にするには、現像の際に長巻にて返却するように指定してください。

液晶表示について

表示には高品質の液晶表示素子を採用しておりますが、液晶はその性質上、通常の使用状態で約5~6年経過しますとコントラストが低下し数字が読みにくくなる場合があります。この場合には、液晶部品の交換をご用命ください(有償)。また使用上、次のことにご注意ください。

- データバックMF-18は直射日光のあたる密閉された車の中や、暖房器具の近くなど、高温の場所に長時間放置しないでください。
- 60°C近くの高温度下では液晶表示が黒くなる場合がありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では液晶の表示応答速度が多少遅くなりますが、これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

電池の交換および取扱いについて

データバックMF-18の液晶表示が点滅を続け始めたら電池の寿命ですので新しい電池と交換してください。なお、電池を交換した時はデータをセットし直してください。-10°C近くの低温状況下では電池の内部抵抗が増えるため、比較的新しい電池でも液晶表示が点滅したままとなることがあります。このようなときは点滅解除ボタン⑤(写し込み選択ボタンと兼用)を押して点滅を消しておいてください。常温に戻れば再び正常に作動します。

- MF-18は電圧のチェックを写し込みのたびに行っており、低温状況下でのように一時的に電圧が落ちて表示が点滅しても次の写し込みの時正常の電圧がチェックできれば点滅は止まります。
- MF-18の銀電池の寿命は通常の使用で約1年です。
- 1.55V銀電池(SR44タイプ)以外の電池は使用しないでください。
- 電池の交換は2個同時にしてください。古い電池をませると寿命が短くなったり誤作動の原因ともなります。
- 電池の交換は直射日光や強い光の下では行わないでください。
- 電池は分解したりショートさせたり火の中に入れたりしないでください。
- 電池は幼児の手の届かない所に置いてください。また、万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 付属の電池はご購入時の作動テスト用です。仕様どおりの寿命は保証できませんので、ご了承ください。

仕様

使用カメラ：MD-4付きニコンF3シリーズカメラ
装着方法：裏ぶた交換式(着脱ピンによる)
使用フィルム：黑白フィルムISO 100~400
カラーフィルムISO 25~400
フィルム感度切替：押しボタンによる3段切替式/光量切替は写し込み時間制御式
データの写し込み法：7セグメント6桁の赤色発光ダイオードによりフィルム裏面露光
データの種類：年月日、時分秒、フィルムナンバー(切替は押しボタン式、月末、閏年は自動修正、フィルムカウントは-2~2000)
写し込みデータの大きさ：フィルム面上で文字高さ約0.5mm、文字幅約6.6mm(全文字表示時)
写し込みの有無：押しボタンにより選択可能
データの修正：3つのボタンにより年、月、日、時、分、秒、フィルムナンバーを独立修正
写し込みシグナル：カメラボディの専用信号
外部表示：7セグメント6桁の液晶表示

電池源：1.55Vの銀電池(SR44タイプ)2個
電池寿命：約1年(常温)
(但しデータ写し込み回数、使用フィルム感度により変わる)電池交換時1982年1月1日0時00分00秒よりスタート
計時精度：月差約30秒以内(常温)
使用温度範囲：-10°C~+40°C(保存は-20°C~+55°C)
モータードライブとの連動：モータードライブMD-4と連動
大きさ：約148.5mm(幅)×68.5mm(高さ)×30.2mm(奥行)
重量：約100g(電池を除く)